

「春日ころ」
山に來て
村の、どけき時に居て、
たゞひと木咲く花に
對へり

『遠やまひこ』
釈 遼空

国学院大学 令和8年4月20日(月) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
[発行] 国学院大学 [編集] 総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10-28 [電話] 03(5466)0130 [FAX] 03(5466)0528

祭儀 ■ 神殿鎮座記念祭 5月1日(金)午前11時 神殿



令和8年度 國學院大學 入学式

知への探求心を満たす 学びの始まり

国学院大学では、令和8年度に大学院で118人(博士前期課程96人、博士後期課程22人)が入学。6学部では2593人(文学部691人、経済学部514人、法学部568人、神道文化学部204人、人間開発学部326人、観光まちづくり学部290人)、専攻科では22人、別科では5人の合計2738人が入学した。

学部・専攻科・別科の入学式は4月2日、グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)で3部に分かれて挙行された。6学部と神道学専攻科、別科神道専修の新入生2620人が、新たな学びの道へ第一歩を踏み出した。

式典では針本正行学長が告辞を述べ、新入生を激励した。

在学生の父母らで組織する若木育成会の半田りえ子会長による祝辞の後、谷口雅博・文学部長、根岸毅宏・経済学部長、菊田真司・法学部長、黒崎浩行・神道文化学部長、太田直之・人間開発学部長、梅川智也・観光まちづくり学部長(井門隆夫・同副学部長代読)が歓迎の言葉を贈り、大学での学修の意義について語った。

続いて新入生代表による「宣誓」が行われ、これから学ぶ学問分野に魅力を見いだしたきっかけや経験について述べた。さらに学修だけでなく、イベントやサークル活動を通じて新たな仲間と出会い、切磋琢磨して、彩りある時間を過ごすことへの期待を口々に表現した。

式典当日は、満開の桜の花びらをぬらした雨も昼過ぎにはやみ、新入生の前途を祝福するかのよう、明るい日差しが広がった。

2面に関連記事

卒業奉告祭・ 入学奉告祭を斎行



学校法人国学院大学は、3月21日に卒業奉告祭(斎主 星野光樹・神道文化学部准教授、神職奉告員)を、4月1日に入学奉告祭(斎主 同)を国学院大学渋谷キャンパスの神殿で斎行した。

卒業奉告祭は、佐柳正三理事長、針本正行学長、役教職員らが参列。斎主の祝詞奏上では、法人傘下各校の卒業・修了・卒園者の今後の活躍を祈念した。

入学奉告祭は、佐柳理事長、針本学長ら役教職員に加えて新入生代表も参列し、法人傘下各校の学生・生徒・園児らの学業精励を祈念し玉串を神前に捧げ拝礼した。

みはるかすもの

渋谷は谷の街だ。そんなことは百も承知だろうけれども、谷には川が流れる。渋谷川、宇田川、いもり川、筈川などが合流して古川となり、三田から東京湾に向かう▼これらの川筋の坂道を上り下りし、風景の變化を楽しもう。お勧めは、國學院の丘と日赤病院の丘の間を流れるいもり川の谷を縫うように広尾に向かうコースである▼大岡昇平の名作『幼年』によれば、そこはもともと鬱蒼と樹木の生い茂った場所だった。そのような谷に「鶴が降りた」といふ伝え、鶴羽根の地名の起源である。今日は超高級住宅地だが、その横、いもり川筋は庶民

的な蛇行する小道である▼國學院、青山学院、聖心女子大、いずれもキャンパスは丘の上、みはるかす台地にあるが、歩いて本当に面白いのは、坂を下り、細い暗渠や路地を行く時である▼いもり川筋から少し逸れて聖心女子大の裏を通り、広尾駅裏の長屋風の一帯に出る。この一帯の路地を彷徨い、大通りを渡れば有栖川宮記念公園になる▼この公園の御料池から西側を上り、さらに麻布十番方向に坂を下る。そうすると、途中の宮村児童公園の下にこれまた風情のある長屋が現れる。そこから東に行けば麻布十番、北に行けば六本木である▼散歩の鉄則は、細い道、曲がった道、上り下りのある道を選ぶこと。そうした道からこそ、都市の長い歴史と未来が見えてくる。これは散歩のみならず人生、学問、まちづくりの鉄則でもある。



令和8年度学部・専攻科・別科入学式 友人と学び、語らい、笑い合う 晴れやかな表情で第一歩

令和8年度の6学部、神道学専攻科・別科神道専修の入学式が4月2日、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」(東京都港区)で挙行された。全学応援団の団旗がひるがえり、管弦

楽団と青葉雅楽会のみやびやかな歓迎演奏が響く中、新入生と家族が参列し、式典会場は厳かな緊張感に包まれた。式開始前には吹奏楽部とフォイエール・コール混声合唱団による校歌

指導が行われ、新入生は晴れやかな表情で口ずさんだ。
式典では針本正行学長からの告辞
II 要旨別掲IIの後、在学生の保証人(父母ら)で組織する若木育成会の半田りえ子会長があいさつに立ち、「素晴らしい校歌の歌詞を読み解き、意味をかみしめ、国大生としての誇りをもって日々を送ってほしい。友人たちと大いに学び、語らい、泣いて、笑って、人生においてかけがえのない時間を過ごすことを期待している」と語りかけた。続いて6学部長が歓迎の言葉を述べ、各学部の学修内容や特色などを説明した。
新入生代表の宣誓では、川邊澤さん(観まち)が「自らの目で見て、歩いて、その街が抱える課題や魅力を肌で感じることを大切にしたい」と誓ったのをはじめ、三枝結衣さん(経営)、箕輪風凛さん(外文)、大江武さん(神文)、岡田着昌さん(法)、新出みのりさん(子支)が各学部代表として清新な決意を述べた。
会場周辺では大学のマスコットキャラクター「こくびよん」と記念写真を撮るなどをして、家族と喜びを分かち合う新入生の姿が見られた。「イベントを通じて地域をよくしたい」と夢を語る須山恵成さん(観まち)は、陸上と学業の両立を目指す。税理士志望の柴田美喜さん(経)は「たくさんの友人と出会い、忘れられない思い出をつくりたい」、大竹虎太郎さん(法)は「交流の幅を広げたい」と、キャンパスライフに思いを膨らませた。鈴木晶登さん(神文)は「立派な神主になれるよう、まずは神道を理解したい」と抱負を語った。石田あかりさん(日文)は「日本語の発音や抑揚に興味があるので、しっかりと学び、書道も続けていきたい」、子どもと触れ合うことが好きだという乗原心佳さん(子支)は「子ども支援という学問に向き合っていきたい」と意気込んだ。

針本学長告辞(要旨)

常識を疑うことで知の扉が開く

古代ギリシャの哲学者、アリストテレスが著した「形而上学」は、「すべての人間は、生まれつき、知ること欲する」と始まる。日常の中に「なぜ?」という驚きを見いだすことが、「知」の探究へと誘う。常識を疑うには、常識を知識として持たなければならぬ。知識の集積である常識を疑うことで、知の扉が開く。
江戸時代の国学者・本居宣長は、誰から教えられて自分の学びを始めるのではなく、自分自身の心に向き合って、自らの思いに身をゆだねることが大切だと、学問の心構えについて説いた。大学は教員が学生へ一方的に知識を伝達する場ではない。国学院大学という学び舎で出会った学友や教職員とともに、既存の研究成果に対して素朴な疑問を提示し合い、議論を重ね、問い直しながら、正解のない課題に主体的に挑み続けてほしい。その中で学友のかけがえのなさを実感し、課題の本質が少しずつ明らかにになり、自身の思考も深まる。ともに学びの道を歩いていこう。



令和8年度 入学者数

4月1日現在、国学院大学の学部、大学院、専攻科、別科の入学者数は次の通り。
◎大学院◆博士前期課程◇文学研究科77人▷神道学・宗教学専攻12人▷文学専攻23人▷史学専攻42人◇法学研究科▷法律学専攻11人◇経済学研究科▷経済学専攻8人◆博士後期課程◇文学研究科22人▷神道学・宗教学専攻4人▷文学専攻9人▷史学専攻9人◇法学研究科▷法律学専攻0人◇経済学研究科▷経済学専攻0人(大学院合計118人)
◎学部◆文学部691人▷哲学科54人▷史学科208人▷日本文学科240人▷中国文学科60人▷外国語文化学科129人◆経済学部514人▷経済学科248人▷経営学科266人◆法学部▷法律学科568人▷法律専攻468人▷法律専門職専攻49人▷政治専攻51人◆神道文化学部▷神道文化学科204人◆人間開発学部326人▷初等教育学科97人▷健康体育学科152人▷子ども支援学科77人◆観光まちづくり学部▷観光まちづくり学科290人(学部合計2593人)
◎専攻科▷神道学専攻科神道学専攻22人(専攻科合計22人)
◎別科▷神道専修I類0人▷神道専修II類5人(別科合計5人)
[総計2738人]



大学院入学式 針本学長「新たな知の創造を」

国学院大学大学院の入学式が4月1日、渋谷キャンパス百周年記念館記念講堂で挙行された。当日は、役教職員や父母らが見守る中、118人の新入生が参列し研究者としての第一歩を踏み出した。
告辞に立った針本正行学長は、「近年、生成AIが急速な進化を遂げているが、学術研究においては、研究者として自身が研究課題に真摯に向き合うことが重要だ。既存の学問知を疑い、自由な発想による研究活動を進め、新たな学術成果を示してほしい。皆さん一人一人が研究することの意義は一体どこにあるのか、社会の関わりはどうあるべきかと自己に問いかけ、通説に挑み、学友と学び合い、新たな知の創造を目指されることを期待する」と呼びかけた。
続いて、佐藤長門・大学院委員長(文学部教授)は、荀子の「勸学篇」を引用し、「荀子は、欲望のままに動く人心を教育や社会規範(礼)によって改善できると説いた。大学院は自由で活発な意見交換ができる場だ。荀子や本学の先人たちのように教育が有する力を信じ、皆さんの入学目的が達成されるようともに頑張ろう」と激励した。
これを受け、新入生を代表して宮嶋隆輔さん(博後文)は、「私たちは研究分野や対象こそ異なるが、研究者としての自覚と自らが携わる学問への誇りを持って、大学院での生活を送りたい」と述べ、大学院での飛躍を誓った。

若狭町との相互連携および協力に関する基本協定を締結

国学院大学(学長・針本正行)と福井県三方上中郡若狭町(町長・渡辺英朗)は3月6日、観光まちづくりを通じた町民生活の向上、教育・研究の推進、地域の発展と人材育成を推進することを目的として相互連携および協力に関する基本協定を締結した。締結式は同日に国学院大学渋谷キャンパスで行われ、針本学長、渡辺町長をはじめ、双方の関係者が出席した。
◆連携・協力事項▷地域の活性化に関する事項▷地域社会や地域の歴史・文化の振興、発展に関する事項▷地域経済、地域産業・観光の振興、発展に関する事項▷資源管理や環境への取組に関する事項▷国際交流と国際相互理解に関する事項▷人材育成に関する事項▷その他、知見等や知的財産等を生かし、連携及び協力することができる事項

令和7年度 学部・専攻科・別科卒業式・修了式 社会の転換期に学びを深めた4年間

国学院大学の令和7年度第134回卒業式が3月22日、グラントプリンスホテル新高輪「飛天」(東京都港区)で挙行された。佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめとする役教職員、卒業生、家族が参列し、厳粛な雰囲気の中で式典は執り行われた。学部の卒業生および神道学専攻科・別科神道専修の修了生2589人は、恩師や学友と過ごしたかけがえのない時間が詰まった学び舎を巣立った。

式典は2部制で、午前は経済、法、人間開発の3学部、午後は文、神道文化、観光まちづくりの3学部の卒業生と専攻科・別科の修了生が参列した。針本学長は各学部の総代に卒業証書・学位記を、専攻科および別科の修了生総代に修了証書を授与した。令和4年度に開設された観光まちづくり学部は、初めての卒業生を送り出した。

針本学長は式辞の中で社会の転換期にあって学びを継続してきた卒業生に敬意を表し、今後のさらなる活躍を祈念した。要旨別掲。続いて、国学院大学院友会の吉田茂穂会長が祝辞を述べ、谷口雅博・文学部長、根岸毅宏・経済学部長、苑田真司・法学部長、黒崎浩行・神道文化学部長、太田直之・人間開発学部長、西村幸夫・観光まちづくり学部長が、それぞれの思い

学長特別賞 1団体と8学生を表彰



令和7年度学長特別賞の表彰式が3月22日の卒業式と4月2日の入学式に続いて行われた。同賞は学生部長賞(=本紙令和8年3月号で既報)候補者の中から、特に優れた功績を上げた団体・個人を顕彰するもの。受賞した1団体、個人8人のうち団体と4年生(受賞当時。以下同)7人への表彰は3月22日に、1年生1人への表彰は4月2日に行われ、針本正行学長から受賞者に賞状が贈られた。受賞者は次の通り。(学年は3月時点)◆団体▷陸上競技部 ◆個人▷上原琉翔(健体4)▷荒川琉正(健体1)▷石井駿介(外文4)▷富田理乃(史4)▷松林穂高(経営4)▷齊藤ゆいか(神文4)▷藤沼日和(観まち4)▷草刈智也(観まち4)

2氏に学位記を授与

国学院大学は佐々木聖佳氏(甲南大学非常勤講師ほか)に博士(文学)、野村典彦氏(千葉大学非常勤講師ほか)に博士(文学)の学位を授与することを決定し、3月24日、渋谷キャンパスで、針本正行学長より2氏に学位記が授与された。

佐々木氏の学位審査論文は『風流踊りの研究』。主査は大石泰夫・文学部教授、副査は岩崎雅彦・同教授、飯島一彦・独協大学名誉教授、福原敏男・武蔵大学教授。野村氏の学位審査論文は『民話という視座—非戦・反戦の思想と行楽・観光のはざまに—』。主査は伊藤龍平・同教授、副査は飯倉義之・同教授、川村清志・国立歴史民俗博物館准教授。

令和7年度 卒業・修了生数が確定

令和7年度の卒業・修了生数が確定した。所属別の人数は次の通り。

◎大学院◆博士前期課程修了◇文学研究科79人▷神道学・宗教学専攻14人▷文学専攻32人▷史学専攻33人◇法学研究科▷法律学専攻4人◇経済学研究科▷経済学専攻13人◆博士後期課程修了◇文学研究科3人▷神道学・宗教学専攻1人▷文学専攻0人▷史学専攻2人◇法学研究科▷法律学専攻0人◇経済学研究科▷経済学専攻0人◆博士後期課程所定単位修得退学◇文学研究科16人▷神道学・宗教学専攻7人▷文学専攻7人▷史学専攻2人◇法学研究科▷法律学専攻0人◇経済学研究科▷経済学専攻1人(大学院合計116人)

◎学部(9月卒業含む)◆文学部751人▷哲学科69人▷史学科229人▷日本文学科281人▷中国文学科44人▷外国語文化学科128人◆経済学部548人▷経済学科267人▷経済ネットワーク学科0人▷経営学科281人◆法学部▷法律学科464人▷法律専攻386人(3年次卒業1人を含む)▷法律専門職専攻38人▷政治専攻40人◆神道文化学部▷神道文化学科200人◆人間開発学部346人▷初等教育学科105人▷健康体育学科142人▷子ども支援学科99人◆観光まちづくり学部▷観光まちづくり学科256人(学部合計2565人)

◎専攻科▷神道学専攻科神道学専攻20人(専攻科合計20人)

◎別科▷神道専修I類1人▷神道専修II類3人(別科合計4人)

[総計2705人]

オープンカレッジ修了式を実施

令和7年度国学院大学オープンカレッジ修了証授与式が渋谷キャンパス有栖川宮記念ホールで、3月13日に行われた。

本学のオープンカレッジは、本学の伝統と実績に基づく学問を、年齢・学歴等を問わずすべての人々に開放し、人生をより豊かで充実したものにする一助となることを願い平成4年から実施している。授与式には、オープンカレッジで累計32単位を修得した受講生27人のうち9人が出席。公開講座委員長の中村正明・文学部教授があいさつし、一人一人に修了証を手渡した。

を込めて前途を祝した。また、卒業生総代として経済学部の中田かれんさん(経)、神道文化学部の齊藤ゆいかさんが答辞を述べ、母校で仲間と学び合った経験を糧に、道を切り開いていく決意を新たにされた。式典後、卒業生らは各キャンパスに移動し、卒業証書・学位記、修了証書を受け取り、学部ごとの卒業祝賀会に参加。土井恒輝さん(法)は学生生活を「人生を変えてくれた4年間であった」と振り返り、卒業後は国家公務員として法務省に入省する。松林穂高さん(経営)は学生が学生を教えるファシリテーター&アドバイザー(F&A)制度での経験を今後の社会活動に生かしたいと意欲を示した。特別支援学校の教員となる中島菜々海さん(初教)は「子どもたちに安心感を与えられる先生になりたい」と抱負を述べた。「アカペラサークルと学業の両立に力を入れた」と語る細谷咲良さん(日文)は日本語学校の教員の道へ進み、室井早優美さん(神文)は「瑞玉會で御神殿の造り替えに携わることができ



たことが貴重な経験となった」と振り返った。藤沼日和さん(観まち)は「1期生として不安もあったが、先生方の支えを受けてのびのびと学ぶことができた」と感謝の言葉を述べた。式典終了後には、学長特別賞の表彰式を実施した。関連記事別掲。

今までにない「知」の獲得に挑戦を

針本学長式辞(要旨)

皆さんが入学した令和4年は、社会にとって一つの転換点となる年だった。Open AIによってChatGPTが公開され、生成AIが急速に社会へ浸透し始めた。生成AIは、過去に蓄積された膨大なデータをもとに、新たな文章や発想を生み出す。また、人間の創造は、経験や感情、迷い、偶然の出会いといった数値化しきれないものからも生まれてきた。この二つの創造のあり方を、皆さんも学生生活の中で体験してきた。思考の深化を紡ぎ出す力は、生成AIとの対話以上に、人と人との関係における対話において強く求められる。学友や教員と議論し学び合う中で、自分とは異なる思考に出会い、ときに感動を覚え、ときに自身の考えが根底から揺さぶられることもある。不常に学び、学んだ内容を、何度も繰り返し、自らの心のうちに反すうすることで、知は明晰になり、行動に誤りがなくなくなる。卒業後も、大学の学びをもとに、今までにない「知」の獲得に挑み、皆さん一人一人の煌めく未来を開かれることを期待している。



大学院学位記授与式 針本学長「社会に意義のある足跡を」 令和7年度の大学院学位記授与式が3月21日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催され、佐柳正三理事長、針本正行学長、佐藤長門・大学院委員長をはじめ、役教職員と修了生らが参列した。本年度は、博士後期課程(博士学位授与)3人、博士前期課程(修士学位授与)96人が修了し、所定単位修得退学17人となった。

II写真。続いて、修士学位授与が行われ、文学研究科は佐藤委員長(文学研究科委員長・文学部教授)、法学研究科は木孝之・同科委員長(法学部教授)、経済学研究科は細井長・同科委員長(経済学部教授)から各研究科の代表学生へ学位記を授与した。式辞に立った針本学長は「皆さんはこれまでの研究過程において、研究対象と真摯に向き合い、過去の研究成果と格闘し、教員や学友と議論を交わしてきた。今後とも既存の学問知にあらがひ、批判し、自らの思考を手にしてほしい。一人一人が自己実現を果たし、社会に意義のある足跡を残すことを期待する」と激励した。佐藤委員長は、「判断を下さなければならぬ時には、できるだけ多くの情報や異なる意見を集め、それらを比較検討して多角的な判断をすること、さらに可能な限り長い期間で物事の変化を捉えることが重要だ。これらはこれまで実践してきた学問の方法そのものだ。自信をもって新たな歩を踏み出してほしい」と修了生たちに祝辞を贈った。修了生を代表し、博士前期課程の小藤菜緒さん(文学研究科)は「これまでの研究過程において身に付けた力は、自らの問題のみならず、社会のなかの課題に気がつき、その解決をも後押しすると信じている。これからも一層の努力と研さんを重ねていく」と答辞に決意を込めた。

令和8年度 予算成立

令和8年度学校法人国学院大学予算は、3月26日の評議員会への諮問を経て、同日の理事会において決定、成立した。

◆事業活動収支予算
事業活動収支は、当該年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③前記以外の活動、以上3つの活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにすることを主な目的としている。

令和8年度基本金組入前当年度収支差額は法人全体で6億5900万円の収入超過となる見込みであり、これから基本金組入額14億円等を加減した翌年度繰越収支差額は121億500万円の支出超過となる見込みである。

◇資金収支予算
資金収支の内容は、会計年度中のすべての収入および支出の内容と支払資金の期末を明らかにすることを目的としている。

令和8年度予算総額は316億6400万円で、前年度予算対比1億7100万円減となる見込みである。収入面では施設工事に伴う特定資産の取り崩しによりその他の収入が2億9500万円増額となる一方、支出面では教育研究経費支出が2億300万円減額となる見込みである。

詳細は、学校法人国学院大学HPに掲載している。

(財務部経理課)

院友神職会および同会東京支部からの寄付目録贈呈式を実施



卒業生神職によって組織される国学院大学院友神職会の東京支部から、神道の教育・研究および文化財の公開を支援することなどを目的に、本学博物館で使用されている展示ケースの修繕費用ならびに新しい展示ケースが寄付され、3月18日、渋谷キャンパスで目録贈呈式が行われた。

また、院友神職会からは研究振興などを目的とした寄付が行われ、3月27日に渋谷キャンパスで目録贈呈式が行われた。贈呈式では、松山文彦・同会会長(昭43修・76期神専攻、東京大神宮宮司)から、針本正行学長に目録が手渡された。

学修支援センター アクセシビリティ支援室を開設

国学院大学は令和8年4月1日より、教育開発推進機構学修支援センター内にアクセシビリティ支援室を開設した。障害のある学生や大学での学修に困難を抱える学生らのために学修環境を整備し、合理的配慮などの支援を行うことを目的とする。相談窓口は以下の通り。

- ▶ 渋谷キャンパス：百周年記念館1F(電話：03-5466-6743)
 - ▶ たまプラーザキャンパス：1号館1F(電話：045-904-7721)
- メールでの相談はいずれのキャンパスも、gs-support@kokugakuin.ac.jpまで。

高校生向け文学塾 第9期を開講



国学院大学文学塾が3月26日、渋谷キャンパスで開講された。高校生のための学びの場として本学文学部が主催しており、同学部の教員たちが専門性の高い内容の講義を行う。

今回は6人の教員による講義が行われ、高校生や高校教員などが参加した。大学での授業と同じ90分の講義を受けた参加者たちは熱心にメモを取りながら聴講していた。

寺井種伯法人顧問 逝去

寺井種伯法人顧問(大阪天満宮名誉宮司)が4月2日に逝去。享年94歳。4月28日午後1時より、大阪天満宮参集殿(大阪市北区)で天満宮葬が執り行われる。喪主は長男の寺井種治・大阪天満宮宮司。

寺井顧問は昭和8年生まれ。平成3年本法人評議員、13年から評議員会議長、27年から本法人顧問を務めた。

関野昭一名誉教授 逝去

国学院大学名誉教授の関野昭一氏が4月4日に逝去。享年95歳。葬儀は家族葬により執り行われた。

関野氏は昭和5年生まれ。28年法政大学法学部卒業。29年から国立国会図書館での勤務、38年法政大学通信教育部指導講師などを経て、39年国学院大学助教授、46年教授。平成12年定年退職、同年名誉教授。在職中は法学部第二部長などを務めた。専門は公法学。主な著書に『国際司法制度形成史論序説：我が国の外交文書から見たハーグ国際司法裁判所の創設と日本の投影』(国際書院、2000年)、『国際法概論』(大成出版社、1978年)などがある。

事業活動収支予算書 令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

科目	収入の部			支出の部			
	予算	前年度予算	増減	予算	前年度予算	増減	
学生生徒等納付金	14,940	15,101	△161	人件費支出	10,526	10,647	△121
手数料	727	727	0	教育研究経費支出	6,009	6,212	△203
寄付金	168	173	△5	管理経費支出	1,371	1,443	△72
経常費等補助金	4,380	4,191	189	借入金等利息支出	14	15	△1
付随事業収入	181	192	△11	借入金等返済支出	600	600	0
雑収入	462	365	97	施設関係支出	1,253	796	457
教育活動収入計	20,858	20,749	109	設備関係支出	347	554	△207
人件費	11,031	11,158	△127	資産運用支出	3,032	3,130	△98
教育研究経費	7,731	8,021	△290	その他の支出	672	600	72
管理経費	1,456	1,548	△92	予備費	299	271	28
教育活動支出計	20,218	20,727	△509	資金支出調整勘定	△634	△668	34
教育活動収支差額	640	22	618	当年度支出合計	23,489	23,600	△111
事業活動収入の部	20,858	20,749	109	翌年度繰越支託資金	8,175	8,235	△60
事業活動支出の部	20,218	20,727	△509	支出の部合計	31,664	31,835	△171
教育活動外収入の部	306	306	0				
教育活動外支出の部	14	15	△1				
教育活動外収支差額	292	291	1				
経常収支差額	932	313	619				

資金収支予算書 令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

科目	収入の部			支出の部			
	予算	前年度予算	増減	予算	前年度予算	増減	
学生生徒等納付金収入	14,940	15,101	△161	人件費支出	10,526	10,647	△121
手数料収入	727	727	0	教育研究経費支出	6,009	6,212	△203
寄付金収入	170	175	△5	管理経費支出	1,371	1,443	△72
補助金収入	4,394	4,217	177	借入金等利息支出	14	15	△1
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	600	600	0
付随事業・収益事業収入	231	242	△11	施設関係支出	1,253	796	457
受取利息・配当金収入	256	257	△1	設備関係支出	347	554	△207
雑収入	462	365	97	資産運用支出	3,032	3,130	△98
借入金等収入	600	600	0	その他の支出	672	600	72
前受金収入	2,790	2,840	△50	予備費	299	271	28
その他の収入	2,147	1,852	295	資金支出調整勘定	△634	△668	34
資金収入調整勘定	△3,288	△3,129	△159	当年度支出合計	23,489	23,600	△111
当年度収入合計	23,429	23,247	182	翌年度繰越支託資金	8,175	8,235	△60
前年度繰越支託資金	8,235	8,588	△353	支出の部合計	31,664	31,835	△171
収入の部合計	31,664	31,835	△171				

法人の主な役教職員人事
法人の主な役教職員人事は次の通り

新任
◎国学院大学北海道短期大学部副学長▽堀越祐一
◎国学院幼稚園副園長▽柳橋智美(令和8年4月1日付)

大学の主な役教職員人事
国学院大学の役教職員人事は次の通り

役職者
◎大学院▽法学研究科幹事▽川合敏樹(以上任期1年)
◎学部▽観光まちづくり学部▽学部長▽梅川智也▽副学部長▽井門隆夫(以上任期2年)

昇格・異動等
◎文学部▽教授▽上石田麗子▽手塚雄太
◎神道文化学部▽准教授▽山口祐樹
◎人間開発学部▽准教授▽中野圭祐▽前田麦穂
◎観光まちづくり学部▽教授▽石垣悟▽清野隆▽大門創▽河見珍▽准教授▽児玉千絵▽仲野潤一▽楊恵亘

「大学事務局」※は、たまプラーザ勤務
◎総務部人事担当部長・同総務課長兼務、たまプラーザ事務部長兼務▽謡口秀見(総務部人事担当部長・同総務課長兼務)

新任・採用
◎教学事務部教育開発推進機構担当部長▽細島洋紀(財務部管財担当部長)
◎学生事務部キャリアサポート担当部長・同キャリアサポート課長兼務▽木村都(学生事務部キャリアサポート担当部長)

◎総合企画部入学担当次長・同入学課長兼務▽秋慎太郎(総合企画部入学課長)
◎教学事務部教育開発推進機構学修支援センター担当次長▽前田浩司(教学事務部教育開発推進機構担当次長)
◎学術メディアセンター事務部研究開発推進機構担当次長▽飯塚陽子(たまプラーザ事務部研究支援担当次長)※
◎教学事務部教務課長▽大矢英広(たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課長)※

◎学生事務部学生生活課長・同キャリアサポート課長兼務▽佐藤友宏(たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課長)※

任期延長
◎文学部▽助手▽伊東俊祐
◎観光まちづくり学部▽助教▽潘夢斐▽助手▽圓山王国
◎研究開発推進機構▽助教(特別専任)▽木村大樹

任用形態変更
◎研究開発推進機構▽助教▽比企貴之(特別専任から変更)

「教員」
◎文学部▽教授(特別専任)▽浅野春二▽准教授▽田原彰太郎▽助教▽橋詰かずみ
◎法学部▽専任講師▽濱村仁
◎経済学部▽助教▽堀江優希
◎人間開発学部▽教授▽河合優子▽准教授▽西村実穂▽助教▽見浦佳葉
◎観光まちづくり学部▽教授▽高山範理▽永瀬節治▽吉澤清良▽助手▽吳珠珮
◎研究開発推進機構▽特別招聘教授▽池田榮史
◎教育開発推進機構▽准教授▽小林友美

「客員教授」
◎客員教授▽岩下尚史▽久保田るり子▽後藤靖子▽さだまさし▽東儀秀樹▽仁志敏久(客員教授任期1年)

「大学事務局」※は、たまプラーザ勤務
◎専任▽国際交流事務部国際交流課主査▽玉田功
◎専任(試用期間)▽教学事務部教務課▽板橋海斗▽穴南美貴※
◎教学事務部教育開発推進機構事務課▽梅田至温▽学生事務部学生生活課▽藤本琉生▽学生事務部キャリアサポート課▽霜島甘奈▽学術メディアセンター事務部図書館事務課▽黒岩美穂▽たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課▽井上舞祐
◎専任(事務局付)▽硬式野球部コーチ▽長岡哲司▽陸上競技部コーチ▽鈴木涼太
◎嘱託▽神道研修事務部神道研修事務課▽佐々木麻結▽学生事務部学生生活課▽中村亜友美

(令和8年4月1日付)

新任専任教職員紹介

本年度4月、本学に着任した専任の教職員20人のプロフィールを紹介する。
丸数字は①略歴②抱負。

文学部

◆准教授

田原彰太郎(たはら・しょうたろう)

①早稲田大学文学研究科人文科学専攻哲学コース博士課程修了。博士(文学)。茨城大学准教授などを経て現職。



②イマヌエル・カントの倫理学や自律概念を中心に西洋哲学の研究をしています。お互いの関心を共有しながら学生の皆さんとともに哲学することを楽しみにしています。

◆助教

橋詰かずみ(はしづめ・かずみ)

①一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。一橋大学大学院経済学研究科特任講師などを経て現職。



②近世ヨーロッパ史、思想史が専門です。史学科の西洋史担当として、学生の皆さんが学びを深める手助けができるよう努めてまいります。

経済学部

◆助教

堀江優希(ほりえ・ゆき)

①一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得満期退学。博士(商学)。常葉大学経営学部助教を経て、現職。



②専門は会計学・コーポレートファイナンスです。理論と実践を意識した研究教育に努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

法学部

◆専任講師

濱村仁(はまむら・じん)

①東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。博士(学術)。東京大学特任研究員などを経て現職。



②国際政治学・安全保障論を専門としており、特に核兵器問題を研究しています。歴史的な転換点にある今日の国際秩序をどう見ればよいのか、一緒に考えていきましょう。

人間開発学部

◆教授

河合優子(かわい・ゆうこ)

①聖徳大学大学院教職研究科専門職学位課程修了。教職修士(専門職)。聖徳大学大学院教授などを経て現職。



②幼稚園での実践、教育行政での経験を生かして、幼児教育の重要性、幼児のも

つ力の興味深さ、保育専門職の魅力をお伝えしつつ、学生の皆さまと一緒に学びを深めてまいります。

◆准教授

西村実穂(にしむら・みほ)

①筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。東京未来大学准教授などを経て現職。



②専門分野は保育・幼児教育です。配慮が必要な子どもの保育、保育施設の災害対応について研究しています。現場に根ざした学びを大切にしながら、学生の皆さんの学びを支えていきたいと思ひます。

◆助教

見浦佳葉(みうら・かほ)

①広島大学大学院人間社会科学科博士後期課程修了。博士(教育学)。広島大学附属小学校教員、広島市公立小学校教員を経て現職。



②専門は、算数・数学教育です。研究と実践の両面から、教育や授業の在り方について学生の皆さんと一緒に考えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

観光まちづくり学部

◆教授

高山範理(たかやま・のりまさ)

①博士(農学：東京大学)／博士(心身健康科学：人間総合科学大学)のダブルドクター。国立研究開発法人の森林総合研究所で森林浴、森林セラピーなど森林と人の健康・回復、森林空間利用の研究に従事。



②国学院大学では、自然と地域をつなぐ教育・研究を通じて、観光まちづくりの新たな可能性を学生とともに探究したいと思ひます。

◆永瀬節治(ながせ・せつじ)

①東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。東京大学先端科学技術研究センター助教、和歌山大学観光学部准教授などを経て現職。



②公共空間や地域資源を生かしたまちづくりについて研究や実践にも取り組んでいます。5年目を迎えた本学部の更なる発展に貢献できるよう努めてまいります。

◆吉澤清良(よしざわ・きよよし)

①立教大学社会学部卒業。日本交通公社での実務や研究、立命館アジア太平洋大学での教員経験を経て現職。



②専門は観光学。地域の魅力をいかに持続可能な観光へとつなげていけるか、地域とともに学び、行動する、その楽しさを分かち合いながら、皆さんとともに探求し

ていきたいと思ひています。

◆助手

呉姝玥(ご・しょげつ)

①東京大学大学院新領域創成科学研究科博士後期課程に在籍。



②地域文化や映像作品を通じた自然認識と観光の関わりについて研究しています。とくに、地域に根ざした文化や物語が、人々の自然や土地へのまなざしにどのような影響を与えるのかに関心があります。教育・研究活動を誠実に支えながら、学生の学びに貢献してまいりたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

教育開発推進機構

◆准教授

小林友美(こばやし・ともみ)

①早稲田大学大学院日本語教育研究科博士課程修了。博士(日本語教育学)。立教大学特任准教授などを経て現職。



②専門は日本語教育学で、これまで国内外で日本語を母語としない方々に教育実践をしてきました。外国語としての日本語の面白さや日本語教育の魅力を伝えていければと思ひます。よろしくお願いいたします。

大学事務局

◆国際交流事務局国際交流課主査

玉田功(たまだ・いさお)

①国学院大学文学部日本文学科卒業。国学院大学事務局、皇学館大学事務局勤務を経て現職。



②愛する母校に19年ぶりに戻ってまいりました。“オール国学院”の精神の下、全身全霊をかけて任務を全うする所存です。何卒よろしくお願いいたします。

◆教学事務局教務課(試用期間)

板橋海斗(いたばし・かいと)

①令和8年3月国学院大学人間開発学部卒業。



②4年間お世話になった母校で奉職できることを大変うれしく思ひます。国学院大学の歴史や伝統、日本文化の素晴らしさを未来に継承する覚悟と決意をもって日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。

◆穴南美貴(あなん・みき) ※たまプラーザキャンパス勤務

①令和8年3月国学院大学法学部卒業。



②母校である国学院大学に奉職することができ、非常に光栄に思ひます。学生時代に培った経験を本学に還元できるよう、誠意を持って努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

◆教学事務局教育開発推進機構事務課(試用期間)

梅田至温(うめだ・しおん)

①令和8年3月東京農業大学国際食料情報学部卒業。



②国学院大学に奉職できることを大変うれしく誇りに思ひます。学生、院友、教職員の皆さまをはじめとする本学と関わるすべての方々のご縁を大切に、感謝の心を忘れずに精励してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

◆学生事務局学生生活課(試用期間)

藤本琉生(ふじもと・るい)

①令和8年3月国学院大学観光まちづくり学部卒業。



②母校である国学院大学に奉職できることを大変うれしく思ひます。皆さまに信頼される職員となれるよう、大学運営に関する知識や実務を学び続け、職務にあたってまいります。よろしくお願いいたします。

◆学生事務局キャリアサポート課(試用期間)

霜鳥甘奈(しもとり・かんな)

①令和8年3月上智大学経済学部卒業。



②社会へ羽ばたく学生の学びの地で奉職できることを、光栄に存じます。これまで培った視点も大切にしながら、大学の発展と社会貢献の双方に寄与できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

◆学術メディアセンター事務局図書館事務課(試用期間)

黒岩美穂(くろいわ・みほ)

①令和8年3月宇都宮大学国際学部卒業。



②国学院大学の一員となれること、大変誇りに思ひます。まずは目の前の一つ一つの業務に精いっぱい向き合い、学生をしっかりサポートできるよう、全力で励む所存です。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

◆たまプラーザ事務局たまプラーザ事務課(試用期間)

井上舞祐(いのうえ・まゆ)

①令和8年3月東洋大学ライフデザイン学部卒業。



②国学院大学に入職することができ、とても光栄に思ひます。大学職員として学ぶことも多いですが、積極的に業務にあたり、できる限り貢献できるように精励します。よろしくお願いいたします。

K:DNA — 創立144年を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

クロスカントリー選手権大会 野中主将が2位

2026世界大学クロスカントリー選手権大会が3月14日にイタリアのカッシーノで開催され、本学陸上競技部の野中恒亨主将(健体3=当時。以下同)が日本代表選手として男子10kmに出場した。野中主将は序盤から上位で冷静にレースを進め、中盤には単独3位で前を追いかける展開に。ゴール手前で1人をおかわし、首位と

9秒差の2位でゴール。日本人トップとなった。また、同部は3月29日にドイツのベルリンで行われたベルリンハーフマラソンにも出場。辻原輝選手(史3)が前半から積極的にレースを展開し、日本人トップの11位でゴール。日本人2位には浅野結太選手(経営2)が続いた。



クロスカントリー選手権大会で日本人トップとなった野中主将

硬式野球部

東都大学野球 春季1部リーグ開幕

東都大学野球春季1部リーグが4月7日、神宮球場(東京都新宿区)で開幕を迎えた。国学院大学硬式野球部は、昨年度秋季リーグは2位。今季初戦は中央大学と対戦し、初回に4点を先制される苦しい立ち上がりとなるも、二回表1死一塁の場面で、花田悠月選手(神文2)がライトへの2ラン本塁打を打ち2点を返す。さらに九回表には、緒方連選手(健体3)と平井悠馬選手(健体4)がそれぞれソロ本塁打を放ったものの、4-10で敗れた。

4月8日の第2戦は、初回、中央大学に1点を先制されるも、五回裏に石井嘉朗選手(法4)がラ

イトへのソロ本塁打を打ち、同点に追いつく。さらに七回裏2死三塁の場面で竹野聖智選手(史4)がセンターへの適時打を打ち1点を加え、この回、2点を挙げ、3-1で勝利を取めた。

4月9日の第3戦では、二回裏に赤堀颯主将(経営4)が左適時打を打ち、1点を先制。続く三回裏には、連打や相手投手の失策で得点を重ね、1死二・三塁の場面で坂根葉矢斗選手(健体3)がレフトへの3点本塁打を放つなど、この一回一挙10点を挙げた。さらに八回裏には、石野蓮授選手(経営3)のセンターへのソロ本塁打で1点を追加し、12-4で勝利。2位で開幕第1週を終えた。



初戦で本塁打を放った緒方選手

強化部会

バレーボール部、 硬式テニス部が強化部会へ

令和8年度より、国学院大学バレーボール部および硬式テニス部が強化部会に指定された。上記2部会を合わせて、本学の強化部会は12部会となる。

バレーボール部は昭和31(1956)年に創部。現在は関東大学バレーボール連盟に加盟し、男子は4部、女子は3部で昇格を目指

して日々奮闘する。硬式テニス部は令和7(2025)年に創部60周年を迎えた、歴史ある部会。平成22(2010)年から長期計画を策定して、現在は「KTC ACTION 2030」のもと持続的な成長を目指している。現在、関東学生テニス連盟に加盟し、男子は7部、女子は5部で昇格を目指し活動している。

強化部会一覧	令和7年度成績
国学院大学硬式野球部	東都大学野球 1部 秋季リーグ2位
国学院大学柔道部	全日本学生柔道体重別団体 3位
国学院大学陸上競技部	(長距離)出雲駅伝1位、全日本大学駅伝4位、箱根駅伝2位
国学院大学剣道部	全日本女子学生剣道優勝大会 女子ベスト16
国学院大学蹴球部	関東大学サッカーリーグ 3部
国学院大学スキー部	全日本学生スキー連盟 アルペン男子1部/女子2部 クロスカントリー男子1部/女子2部
国学院大学ラグビーフットボール部	関東大学リーグ 2部
国学院大学卓球部	秋季・関東学生卓球リーグ 男子1部/女子1部
国学院大学ソフトテニス部	関東学生ソフトテニス秋季リーグ 男子1部/女子1部
国学院大学バスケットボール部	関東大学バスケットボール連盟 男子3部/女子2部Bブロック
国学院大学バレーボール部	関東大学バレーボール部 男子4部/女子3部
国学院大学硬式テニス部	関東学生テニス連盟 男子7部/女子5部

インフォダイジェスト

…在学生 …保証人 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間帯 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

令和8年度学費等納付金について

令和8年度学費等納付金(前期)口座振替日は、6月22日(月)を予定しています。詳細は4月30日(木)より順次、保証人(大学院生は本人)へお送りする「学費等納付金に関する通知」や本学HPをご確認ください。

☎ 経理課(☎03・5466・0115)

▶ 学生生活課(渋谷 ☎03・5466・0145、
たまプラーザ ☎045・904・7714)

▶ 大学院事務課(☎03・5466・0142)

健康診断の結果および 健康診断証明書の発行について

本年度の健康診断の結果は6月下旬以降、K-SMAPY IIの学籍情報照会で確認できます。就職活動などで使用する健康診断証明書は、5月12日(火)から発行が可能です(1部500円)。※コンビニエンスストア発行は別途印刷代1枚60円

☎ 保健室(☎03・5466・0148)

文学部講演会 「日本・ベルギー 美と知の交流の軌跡」

文学部講演会を開催いたします。この講演会は、5月

23日(土)から6月28日(日)にかけて、国学院大学博物館で開催される特別展「日本ベルギー-修好160周年記念-美と知の交流の軌跡-」の関連企画として開催されます。博物館における展示の観覧と併せて、多くの方のご参加をお待ちしております。申し込みは下記二次元コードから。

📅 5月30日(土) 🕒 14時~16時30分
📍 渋谷キャンパス 学術メディアセンター
常磐松ホール

📧 文学部資料室(✉bun_siry@kokugakuin.ac.jp)

イベント

若木育成会 「支部の集い」にご出席を

本学の学部生と専攻科・別科生(外国人留学生を除く)の保証人(父母ら)で組織される若木育成会では、全国56の支部で「支部の集い」を5月下旬から7月下旬にかけて開催します。本学の教職員による「大学の現状」についての報告と説明を行い、お子様の学修状況に関する個別相談会も行います。新入生の保証人の皆さまにとっては本学をお知りいただく機会となりますので、ぜひご出席ください。

📍 本学HP=二次元コード=参照

📅 開催1カ月前ごろに案内状をお送りしますので、若木育

成会ポータルサイトからお申し込みください。

☎ 校友課(☎03・5466・0131)

博物館

📄 無料 🕒 10時~18時(最終入館17時30分)。祝日を除く月曜休館
※博物館関連イベントの問い合わせ☎03・5466・0359

特別展「日本ベルギー-修好160周年記念- 美と知の交流の軌跡-」

1866年に日本とベルギーは「修好通商航海条約」を締結し、今年で160年を迎えます。両国は制度・文化・芸術において、互いに影響を与えながら近代国家として歩み続けてきました。このたび、国学院大学の協定校であるルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)との共催、駐日ベルギー大使館の後援のもと、修好160周年を記念する特別展を開催します。

本展では、「美」と「知」をキーワードに、両国の交流の軌跡を双方向から紹介し、ベルギー外交文書、ベルギー王国所蔵品、国学院大学コレクションから、両国の交流史について展示します。160年の歴史の中で育まれた日本とベルギー友好の軌跡をご覧いただければ幸いです。

📅 5月23日(土)~6月28日(日)

📍 博物館企画展示室